

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

6月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 292件（前月比0.4、前年比8.6）でした。2月をピークとして、以後は連続して減少しています。前年比は8.6であり、昨年よりは高めで推移していますが、今後は例年通りに収束するものと推測されます。天草18.1、宇城6.0、菊池5.6が高くなっています。

小児科定点

（全体傾向）

5,563件（前月比1.36、前年比1.51）であり、前月比、前年比とも増加しています。感染性胃腸炎2,141件、手足口病1,012件、A群溶連菌咽頭炎908件が大きく占めています。ヘルパンギーナ405件（前月比3.9、前年比0.9）、手足口病1,012件（前月比2.6、前年比6.0）は、今後も増加していく可能性が高く、又、A群溶連菌咽頭炎908件（前月比1.4、前年比2.0）は例年より高い値で推移しており、今後の動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 10件（前月比1.0、前年比0.4）と昨年1月より連続して減少しています。昨年より低い値で推移していますが、近年は夏季に流行が始まりますので、今後の動向に注意が必要です。
2. 咽頭結膜熱 : 158件（前月比1.4、前年比1.9）でした。前月比、前年比とも増加しています。5月からは連続して増加しており、例年より高い値で推移しています。菊池5.8、熊本5.6が高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 908件（前月比1.4、前年比2.0）でした。前月比、前年比とも増加しています。5月から連続して増加しており、また、例年より高い値で推移しているため、今後の動向に注意が必要です。菊池42.2、熊本23.8が特に高くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 2,141件（前月比1.5、前年比1.4）でした。前月比、前年比とも増加しています。12月をピークとして4月までは連続して減少していましたが、その後は増加に転じています。有明95.6、菊池86.4が特に多くなっています。
5. 水痘 : 85件（前月比1.2、前年比1.8）でした。昨年よりは高い値で推移しています。3歳未満での発生は20件、23.5%でした。水痘ワクチンの定期接種ならびに年長児への任意接種のさらなる推奨が必要と思われるます。
6. 手足口病 : 1,012件（前月比2.6、前年比6.0）でした。4月から連続して増加しています。前年比は6.0であり、昨年より著明に高い値で推移しており、今後の動向に注意が必要です。有明64.6、が特に高くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 8件（前月比0.6、前年比0.1）でした。少ない値で推移しています。昨年の同時期よりは大きく減少しています。
8. 突発性発疹 : 235件（前月比1.7、前年比1.0）。前月比は増加していますが、前年比は大きな変化はなく、例年並に推移しているようです。
9. 百日咳 : 3件（前月比3.0、前年比-）と少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ : 405件（前月比3.9、前年比0.9）でした。4月からは連続して増加しています。昨年のピークは7月でした。今後の動向に注意が必要です。山鹿33.0が特に多くな

っています。

11. 流行性耳下腺炎 : 95件(前月比1.0, 前年比0.3)でした。昨年よりは低い値で推移しています。3歳以上での発生数が87件、91.6%を占めています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 50歳台に1件の報告(前月比1.0、前年同月1.0)と増加はありません。熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数57件(前月比1.3、前年同月1.1)と僅かに増加しています。熊本48件、菊池2件、有明5件、天草2件の報告です。年齢別では20~39歳に20件と多発していますが、4歳、5歳の発症も目立ちますので保育園、幼稚園児で注意が必要です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数47件(前月比0.8、前年比1.0)で、前月比は減少し、前年比は同数です。男女別は、男性27件、女性20件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は20~69歳と幅広い年齢に見られ、女性は15~34歳に見られます。地域別は、熊本が37件、次いで有明4件、宇城3件、御船2件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数30件(前月比1.3、前年比1.9)で前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性18件、女性12件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20~64歳に見られ、女性は15~69歳に見られ、男女ともに幅広い年齢に見られます。地域別は、熊本19件、次いで八代5件、宇城3件、御船1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数2件(前月比0.3、前年比0.2)で、前月比、前年比ともに減少しています。2例ともに男性でした。年齢別は、男性は20~34歳に見られます。地域別は熊本2件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数17件(前月比0.6、前年比1.9)で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性14件、女性3件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は15~70歳以上と幅広い年齢に見られ、女性は20~34歳に見られます。地域別は、熊本が14件、次いで有明2件、宇城1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は14件(前月比:0.6、前年同月比:0.9、男女比:7/7)で3月をピークに減少傾向にあります。熊本地区(5)を中心に、人吉地区(3)、阿蘇・八代地区(2)(以下略)と広範囲に認めます。70歳以上(10)をピークに各年齢散発性に検出されました。
▼H27, 28のデータからは2-3月をピークにほぼ10-25人程度の検出を認めます。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数は5件(前月比:0.7、前年同月比:1.0、男女比:5/0)で引き続き男性での検出が多い傾向にあります。2月をボトムに増加横向き推移にあります。熊本地区(3)、山鹿・有

明(1)の報告でした。1-4歳(1)、5-9歳(1)と70歳以上(3)と二峰性を示しました。

▼H27, 28に比較してほぼ例年通りの推移と考えます。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。前月に引き続き報告はありませんでした。

▼H29. 3月(1)以降報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で4月以降減少傾向にあります。
▼H27, 28と10月ならびに11月にピークがあり、夏季の報告は0-1件です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は6件（前月比：1.0、前年同月比：1.0）で3月以降増加傾向にあります。
熊本地区(6)からの報告のみです。0歳(1)、1-4歳(1)、50-54歳(1)、65-69歳(1)、70歳-(2)でした。
▼H27, 28と例年4月以降の増加と7月ないし9月のピークを経て、減少に転じます。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は12件（前月比：6.0、前年同月比：0.5）で急激な増加傾向を認めます。
熊本地区(9)、有明地区(2)、水俣地区(1)と熊本地区に多い傾向です。
0歳(2)、1-4歳(2)、5-9歳(4)、10-14歳(4)と5-14歳でピークを示しました。
▼H27, 28のデータからは3-5月以後、上昇傾向を認めますので注意が必要です。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で前月に同様、報告はありませんでした。
▼H28. 12月(1)のみでした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）： 報告数は20件（前月比：0.9、前年同月比：10.0）で前月に比較し減少傾向にありますが、比較的多い傾向に変わりありません。熊本地区(19)、有明地区(1)と偏りを認めます。0歳(2)、1-4歳(14)をピークに5-9歳(4)で認められました。
▼H27, 28では3月をピークに減少傾向にありましたが、H29ではピークは4月にずれ込み、減少傾向ではありますが、患者も比較的多い状況にあり注意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	：	報告はありませんでした。	
2類感染症	：	結核	26件
3類感染症	：	腸管出血性大腸菌感染症	17件
4類感染症	：	つつが虫病	1件
		日本紅斑熱	8件
		レジオネラ症	4件
5類感染症	：	アメーバ赤痢	1件
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
		後天性免疫不全症候群	1件
		水痘（入院例）	2件
		梅毒	6件
		風しん	1件